

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	いきるちから3		
○保護者評価実施期間	2026年1月26日		～ 2026年2月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45人	(回答者数) 33人 (73.3%)
○従業者評価実施期間	2026年1月26日		～ 2026年2月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み (※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○チームで連携を図りながら、療育を進めていくことができるように連携を図っている。	○毎日の朝礼時に子どもの様子や送迎時の保護者のニーズなど細かい情報の共有を行い、お互いの意見を出し合いながら療育を進めていくようしている。 ○個別支援計画を作成する際には担当制を用い、職員が責任を持って取り組める環境を整え、意見・助言をもらうことができるように工夫している。	○チームの連携をさらに図りつつ、業務内容の見直しを行うことで効率化を図っていく。 ○朝礼時にいない職員に情報を共有することができるようにしていく。
2	○包括的に療育を進めていきながら、ひとり一人の個別の課題に向けてもアプローチすることができている。	○個別支援計画書の共有だけでなく、専門的支援計画書の共有を行い、実施する内容を職員同士で相談しながら進めている。 ○1週間ごとにカリキュラムを変更していき、包括的に療育を進めていくことができるよう月終わりに次月の予定を作成し、取り組んでいる。	○専門的な知見を広げるとともに、内容の充実を図っていくために外部研修などへの参加をしていき、実践に繋げていく。
3			

	事業所の弱み (※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○個別対応時のスペースの確保が難しい。	○事業所内のスペースは限りがある為、個別のスペースを設けることが難しいと考えられる。	○環境設定の変更や活動内容によって、2グループでの活動などを行いながら、できる限り個別でのスペースを確保できるよう配慮していくことが必要だと考える。
2	○保護者参加型の行事などの保護者同士のコミュニティーを広げるような活動が少ない。	○保護者参加型のイベントを開催したことはあるが、定期的ではない。 ○保護者向けのイベントの開催ができていない。また、ペアレントトレーニングを行えるほどの知識を持っていない。	○保護者参加型のイベントを企画し、実施できるように進めていく。 ○ペアレントトレーニング講習などに参加し、必要な知識の獲得に努めていく。
3			